

今回は『原三溪翁伝』にまつわる自由課題や特別研究として、3件の発表がありました。

「原三溪翁伝にみる澁澤栄一」

発表者：廣島亨

『原三溪翁伝』巻末の人名索引によると、澁澤栄一は本文中に24回登場しています。各所での記述をもとに、原善三郎や原三溪と澁澤との接点や、事業における役割を洗い出すことで、これまでになかった角度から人間関係や時代背景が分析されました。

質疑応答では、明治政府に多くの人材を輩出した薩長土肥には大きな河川が無いのに対し、三溪は木曾川、澁澤は利根川という国内有数河川のそばに育ったことから水運業を含めた経営の視点が養われたのではないか、との指摘がありました。



三溪先生の絵画鑑賞 — その2

「三溪と宮本武蔵 余二天ヲ愛スル事甚シ」

発表者：藤嶋俊會

二天とは、二刀流で知られる宮本武蔵が水墨画を描くときに使っていた号です。三溪は『三溪帖』のなかで自身が所蔵する二天筆《布袋観鬪鶏》（現 福岡市美術館蔵、重要美術品）を取り上げて、「余二天ヲ愛スル事甚シ」と述べています。さらに三溪は自費出版した『餘技』に二天の絵を7点収録しました。発表者は、剣の道を究め絵画でも見るべきものを残した二天に、実業をおろそかにせず築庭や絵画も極めようとした三溪の姿を重ね合わせ、二人の決着を引き分け（！？）としたのでした。

「大佛次郎のエッセイ」

発表者：内海孝先生



大佛次郎による神奈川新聞での不定期連載コラム「ちいさい隅」から、「風の三溪園」の回を紹介いただきました。このコラムのなかで大佛次郎は、東京都にもないような古い時代の建物が三溪園に集められていることに触れています。日本のナショナル・トラスト運動を起こした大佛は、このようにさりげなく文化財に耳目を集めさせたのかもしれませんが。